

日本海ブロックにおける特筆すべき情報(府県水産試験場等)

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	特になし	本県沖で観測した対馬暖流は表面水温は低め傾向が続いたが、暖流流幅はかなり広め、流勢はかなり強めで推移した。 5月中旬、深浦沖の定置網にオスのカマイルカが入網し、浅虫水族館に収容された。	特になし	特になし

機関名: 秋田県農林水産技術センター水産振興センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 山形県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	なし	なし	なし	なし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	佐渡地区の刺網でウスマバルが好漁。 4月の漁獲量は63%で過去3カ年平均の2.8倍、5月は42%で同2.4倍。	特になし	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	・スルメイカ(小型イカ釣り) 漁期が遅れたことや小型サイズ主体であったことから5月は低調に推移したが、6月以降好漁となり、7月上旬に入ってもまとまった水揚げが続いている。 ・サワラ・マダイ(定置網) 初漁期である4月は低調に推移したが、5月以降は好漁となり、平年をかなり上回った。	4月・5月の石川県沿岸水温は、平年に比べかなり低め(-1~2℃)で推移。宇出津港の月平均水温を過去30年間で比較すると、4月は1984年に次ぐ2番目に低い水温、5月は最も低い水温を記録した。	特になし	特になし

機関名: 福井県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	特になし	4月後半～5月の沿岸表面水温が例年と比べて1~2℃低かった。 夜光虫(ノクテルカ)による赤潮発生の情報なかった。	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	◎カタクチイワシは1月から6月までの漁獲量が1,167トンと不漁(昨年比29%、平年比66%)で推移している(4月のみ平年並み)。 ◎マアジは1月から6月までの漁獲量が541トンと不漁(昨年比51%、平年比35%)で推移している(全ての月で昨年、平年を下回っている)。	◎4月平年並み(11.2℃)、5月平年並み(13.4℃)であったが、6月はかなり低め(15.4℃)で推移している(沿岸定線観測)。 ◎海洋センターの取水海水温(水深12mから取水)も、近年の10年間平均値比べ1~2℃低い状況であり、はなはだ低めで推移している。	◎漁獲されたアワビが一次畜養中に斃死する事例が今年になってから目立つ。一部の漁業者からは、漁場で衰弱した(岩の上でだらんとして簡単に漁獲できる)アワビ成貝もみられるとの情報もある。	* 6月下旬頃からサケガシラ属の幼魚が若狭湾西部(京都府)の各地の定置網に入網している模様(0~2個体/日)。 * 6月頃から府内定置網にウチワカンテンカメガイが入網、操業障害(魚が見えにくい、魚体を傷める等)が出ている模様。当所調査船平安丸での桁曳網調査でも多数入網(6/14~15、16~17、21~22、7/1~2、7/6~7:経ヶ岬沖)。

機関名: 兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・境港カタクチイワシ(まき網)は、例年3・4月に漁獲が多いが、本年は4・5月に多かった。(1986年以降で5月単月として最高の6,700トン) ・4月下旬から5月上旬にかけて短期間であったが、生殖腺が発達したマイワシ大中羽(比隣体長18～22cm)が水揚げされ、市場関係者からは10数年ぶりに大羽イワシの顔を見たとの声も。 ・境港クロマダコ(大中小型まき網)は、6月1日に今期初水揚げ。(統計のある1982年以降で2番目に早い) ・沖底で今春はクモヒトデが非常に多いとの情報あり。 ・低水温の影響により、コウイカの漁期が1ヶ月程度づれた。 ・マダイの産卵期が1ヶ月程度遅れた。 ・メイト・ムシガレイの稚魚の発生が好調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県沖の水温は、4月まで平年並みで推移したが、5月、6月は平年を1℃下回って推移した。 ・今年時は化が多く、5月下旬まで時化続きで、調査・観測に影響が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁獲アワビを畜養すると斃死したり活力の低下が見られた 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度はアユの成長が悪く県内のアユ漁は極端な不漁となっている。

機関名: 島根県水産技術センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	4月の西郷、浦郷の中型まき網の1日1統当たりマアジ漁獲量は、平年値(過去5年の平均)の、それぞれ3%、0%であった。	4月の浜田と恵曇の平均水温は、それぞれ、13.8℃、13.6℃で、平年より0.9℃低かった。これは、10年に1回生じる現象である。	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成22年 4月～6月	カタクチイワシ、ケンサキイカ漁の開始時期について、例年に比べ1ヶ月以上の遅れが見られる。	なし	5～6月にかけて漁場であわび類が衰弱又はへい死する現象が発生。	なし